

レタス (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型であるが、結球した段階で収穫となる。窒素の吸収パターンは連続吸収に近い山型を示す。リン酸については、中～高領域に適応性を持ち、窒素、カリの吸収量が多い。

レタスは本圃での生育期間が短く、肥料の要求量が比較的多い作物であることから多肥傾向にあり、収穫後の土壌には養分が残存しやすい。そのため、他作目との組み合わせなどを図り、残存養分の過剰な集積を回避する必要がある。なお、生育期間が短いことから、初期生育を促進させることが重要となる。

〔病害虫・雑草防除〕

連作を避ける。圃場の排水を良好に保ち、特にマルチ面に滞水させない。過度の密植をせず、過湿を防ぐ。収穫が梅雨期にかかると灰色かび病の発生が多くなるので、早期収穫を図る。病害虫の早期発見、適期防除に努め、化学農薬使用の低減を図る。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥 1～2t/10a
化学肥料 低減技術	全量を基肥として局所施肥(条施肥など)する。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%
化学農薬 低減技術	B T剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：オオタバコガ、ヨトウムシ類など) 微生物農薬を利用する。 (対象：軟腐病、腐敗病) 対抗植物(ギニアグラス、クロタラリア等)を利用する。 (対象：センチュウ類) 光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、ウイルス病、雑草など) 防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：ヨトウムシ類、アブラムシ類など) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象：ハスモンヨトウなど) マルチ栽培を行う。 (対象：菌核病、雑草)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	

レタス (施設) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型であるが、結球した段階で収穫となる。窒素の吸収パターンは連続吸収に近い山型を示す。リン酸については、中～高領域に適応性を持ち、窒素、カリの吸収量が多い。

レタスは本圃での生育期間が短く、肥料の要求量が比較的多い作物であることから多肥傾向にあり、収穫後の土壌には養分が残存しやすい。そのため、他作目との組み合わせなどを図り、残存養分の過剰な集積を回避する必要がある。なお、生育期間が短いことから、初期生育を促進させることが重要となる。

〔病害虫・雑草防除〕

連作を避ける。圃場の排水を良好に保ち、特にマルチ面に滞水させない。過度の密植をせず、過湿を防ぐ。収穫が梅雨期にかかるとう灰色かび病の発生が多くなるので、早期収穫を図る。病害虫の早期発見、適期防除に努め、化学農薬使用の低減を図る。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥(年間) 1～2t/10a
化学肥料低減技術	全量を基肥として局所施肥(条施肥など)する。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で慣行施肥量で20%減 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%
化学農薬低減技術	B T剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：オオタバコガ、ヨトウムシ類など) 微生物農薬を利用する。 (対象：軟腐病、腐敗病) 対抗植物(ギニアグラス、クロタラリア等)を利用する。 (対象：センチュウ類) 夏季に太陽熱土壌消毒を行う。 (対象：土壌病害虫、雑草など) 流動性被覆資材を利用する。 (対象：灰色かび病など) 近紫外線除去フィルムを利用する。 (対象：灰色かび病、ハモグリバエ類など) 光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、ウイルス病、雑草など) 防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：ヨトウムシ類、アブラムシ類など) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象：ハスモンヨトウなど) マルチ栽培を行う。 (対象：菌核病、雑草)	慣行使用回数の20%減
その他の留意事項	水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	